

日曜論壇

湯澤 典子

2024.8.18



たは育児不
た場合、ま
困難となっ
もの養育が
により子ど

本県で「どちらのきふオスタ
ー」の愛称で呼んでいる養育
里親には、児童相談所から委
託を受けて子どもを養育する
ほかにも、大きく二つの役割
がある。

一つは、夏休みなどの長期
休業の際に、施設の子どもを
迎え、3日、家庭の生活を
体験してもらう県のふれあい
里親事業。もう一つは、市町
の子育て支援事業の一つであ
る短期入所生活援助(シヨー
トステイ)事業の担い手とし
ての役割である。

安や育児疲れなどによる保護
者の負担軽減が必要な場合に
利用できる。

しかし里親がシヨートステ
イを受け入れられるよう、契
約をしている県内の自治体は
まだほんの数カ所だ。実際は
市町が契約している乳児院や
児童養護施設等に数日間、子

ての自治体で同じように提供
されているわけではない。

特にシヨートステイ事業
は、料金が負担となり保護者
が利用を躊躇うこと
もある。さらに利用したい時
に施設等に空きがなければ、
タイムリーな利用は難しい。
「子どもと親のことを考えた

を助けてくれたら、家族がば
らばらにならずに済んだか
も、と考える子どもたちもい
る。

虐待の状況に陥らないため
にも早めに、そして継続的に
サービスを利用できると思
い。地域の子育て支援を必要
とする人が、もっと気軽に利

地域で支援できる里親を

どもの養育を依頼するケー
スが多い。

子育てにおいて保育園の利
用や親族・知人の助け、時には
病児保育や一時預かりも必要
となる。さらに子育て中の疲
労を回復する時間も大切だ。
しかし現実には、病児保育をは
じめ子育て支援サービスが全

ら大変でも断れない」と、何
とかしてシヨートステイを引
き受けてくれる施設などで支
えられている。

虐待しようと思っていはいな
いがそういう状況となつてし
まう、助けてほしい、止めて
ほしいと思っている親がい
る。もっと早く親を、わが家

用できる環境の整備が進むこ
とを期待する。

ひとり親家庭の親が入院す
るなどして、頼れる親族もな
く子どものみとなった場合、
児童相談所の一時保護のほ
か、短期間であればシヨート
ステイ事業の利用が想定され
る。そのとき、地域に住む里

里親の啓発やリクルートを
進める上で、シヨートステイ
里親が増えるよう、市町と協
力して今後つながりを広げ
ていきたいと思う。

(栃木フォスタリングセンタ
ー長)